奄美の自然を守り、後世に引き継ぐために

塩田康一知事

県では、奄美の自然や環境文化を保全・継承しながら、地域の持続的な発展を目指しています。そのため、世界自然遺産としての価値の維持、自然環境の保全と利用の両立、奄美の素晴らしい自然を次の世代に継承する気運のさらなる醸成、奄美の魅力の情報発信に取り組んでいます。

世界自然遺産としての価値の維持

世界自然遺産としての価値の維持を図るため、アマミノクロウサギなどの希少野生動物の交通事故防止対策、希少野生動植物の保護対策、ノネコの捕獲やノヤギの駆除を含む外来種対策など、奄美の自然環境を守るための取り組みを行っています。

また、道路や橋、港などの公共工事による奄美の自然への影響が最小限となるよう指針を作成し、自然環境に配慮した公共事業を推進しています。

希少野生動物の交通事故防止のための標識

希少野生動植物の盗採防止のためのパトロール

気運の醸成

奄美の自然への理解を深め、次の世代に継承する気運を醸成するため、PR動画やパンフレット、看板などを制作し、普及・啓発を図っています。

世界自然遺産登録PR看板（鹿児島県庁）

PR動画の視聴はこちらから

自然環境の保全と利用の両立

世界自然遺産登録を機に、観光客の増加が予想されることから、国・県・市町村等が連携しながら、自然環境の保全と利用の両立に向けて取り組んでいます。

一例としては、奄美大島の金作原や徳之島の林道山クビリ線など、保護上重要な地域において利用のルールを設定し、運用しています。また、利用の分散を図るとともに、気軽に奄美の自然を楽しめる「奄美自然観察の森」（龍郷町）のリニューアルや、登録の効果を奄美群島全体に波及させることを目的とした「世界自然遺産奄美トレイル」の活用を進めています。

金作原では「認定ガイド同行」などの利用ルールを設定。看板で周知するなど注意喚起を行っています。

遊歩道に沿って森を散策できる「奄美自然観察の森」。希少野生動植物も観察できます。

世界自然遺産 奄美トレイル
Amami World Heritage Trail

「世界自然遺産奄美トレイル」は、奄美群島の8つの有人島（全12市町村）をつなぐ長距離の自然歩道です。亜熱帯の森や白い砂浜、サンゴの石垣のある集落など、奄美ならではの自然や文化に触れ合うことのできるコースを地域の方々と一緒に選定し、令和3年1月に全線が開通しました。

14エリア51コース：総延長約550km

龍郷町エリアの開通イベントでは参加者全員で加世間峠まで歩きました。

固有種の宝庫

亜熱帯の常緑広葉樹の森には、島独自の生態系が育まれ、ここにしかいない生き物（固有種）が多く生息しています。ここでは、奄美の希少な生き物たちをご紹介します。

アマミノクロウサギ

奄美大島と徳之島のみに生息。ウサギ科の中では原始的な種で、ウサギのイメージと異なるところも多く、目は小さく、耳や足、尾が短い。爪がよく発達していて穴掘りが得意。国指定特別天然記念物。

アマミハナサキガエル

奄美大島と徳之島のみに生息。沖縄島北部に生息するハナサキガエルと同種と考えられていたが、平成6年に新種として登録された。

ルリカケス

奄美大島・加計呂麻島・請島のみに生息。カラス科カケス属の鳥で、光沢のある瑠璃色と赤褐色の羽が美しい。国指定天然記念物。鹿児島県の県鳥でもある。

オビトカゲモドキ

徳之島のみに生息。背中に4本の横帯模様があるのが特徴。トカゲのような姿をしているが、ヤモリの仲間。

アマミヤマシギ

奄美大島、徳之島、沖縄島北部に生息。全体にずんぐりとした体型で、尾と脚が短い。脚の力が強く、羽を使いながらジャンプするように飛び上がる。

リュウキュウハグロトンボ

奄美大島・徳之島・沖縄島北部に生息。光沢のある青緑の胴体と黒い羽が特徴のカワトンボ。奄美と沖縄で、羽の模様がやや異なる。

アマミセイシカ

奄美大島固有のツツジ科の小高木。3～4月ごろに、淡いピンクを帯びた白い花を咲かせる。

ウケユリ

奄美大島や徳之島で見られ、とくに請島に多いことがその名の由来となっている。6月ごろに大輪の白い花を咲かせる。

トクノシマエビネ

徳之島固有の地生ラン。3～4月ごろに、白に紫褐色や赤褐色の入った落ち着きのある色合いの花を咲かせる。

※多くの生き物は、法律や条例で捕獲・採取が規制され、保護されています。それらの生き物を捕まえたり採取したりした場合は、罰則などが科せられます。